



## 企画展「ピーチャラドン～遠州の祭りと太鼓～」が開催されます！

期間：平成11年9/30（木）～10/24（日）期間中休館日10/4、12、18

毎年遠州では夏の盆に「遠州大念仏」と呼ばれる行事が行われます。この行事では主に、初盆の家々をまわり、双盤や笛、太鼓などを用いて回向を行います。現在用いられている太鼓には2種類あり、山間部の一部地区では締太鼓、他の多くの地区では胴の部分か桶でできた太鼓を使っています。



この7月に、遠州大念仏で用いる太鼓製作の様子取材してきました。

太鼓の製作は、大きく分けて胴の部分の製作と革の部分の製作に分けることができます。今回お伺いした太鼓店では、胴の部分は桶を専門に造る別のところへ発注します。

さて、遠州大念仏で使われる太鼓は「ぬいもの」の太鼓です。ぬいものとは、革をはりと糸で縫う加工が入ってきます。縫うと言っても、革は厚いので、針も裁縫で普通に用いられているものよりかなり太く丈夫で、先端はナイフのように刃がついています。縫う作業の部分の手順を大まかに述べると、次のようになります。

1. 金輪（鉄の輪）にひもを巻く
2. 1に皮をかぶせて麻ひもではるように留める
3. 所定の位置を縫う
4. 天日で乾燥させる

これらの作業の詳細は、企画展会場にてビデオ映像や展示模型などでご覧いただくことができます。

### 企画展

#### ピーチャラドン 遠州の祭りと太鼓

遠州の祭りのいくつかを取りあげて映像や写真、楽器などを通して祭りの今の姿をご紹介します。また、まつりに多く登場する太鼓を特にとりあげ、その製作方法や性質、人々が抱くイメージ、まつりの中での役割を確かめながら、まつりと太鼓の結びつきを考えます。

### 関連の催し物

#### ●講演会「遠州の太鼓」

日時：平成11年10月11日（月・祝）

会場：アクティシティ浜松

研修交流センター

講師：浜松出世太鼓保存会

掛塚屋台囃子保存会

遠州大念仏保存会 他

聴講無料、9/7（火）より電話申込受付中

#### ●ミュージアムサロン

##### 「桶の太鼓」

開催日：10/17（日）

時間：11時、14時

各約20分間

会場：楽器博物館展示室

お電話：当館学芸員

出演：宮竹町青年会

申込不要、観覧料のみ



## 展示室の声 “ヴァイオリン”

「こんな形の楽器があるよ、どうやって演奏するのかな？」という声をよく耳にします。楽器博物館には現在では、あまり目にしない奇妙に感じる楽器が数多く展示してあります。今回は、そんな楽器、特に“ヴァイオリン”にスポットを当てたいと思います。

ヴァイオリンは、形態・機能共に全く改良の余地がないと言われるほど、完成された楽器です。しかし、昔から、奇妙なヴァイオリン？を作り出してきた好事家や発明家がたくさんいました。

まず、ステッキのような楽器(写真1参照)。名前通り、ステッキ(杖)のような形に作られ、その中に細いヴァイオリンと弓が仕込まれているものです。演奏時には、握りの部分を顎にあてていました。18世紀半ばに、ヨーロッパで散歩の途中にでも、すぐに音楽が奏でられるように、と作られたものです。あまり一般的には広まらなかったものですが、現在、人を驚かすゆかいなものである為、ドイツやフランスで飾り物として作られています。



写真1 ステッキ・ヴァイオリン(マルクノイキルヘン、ドイツ)  
19c後半 全長93.5cm

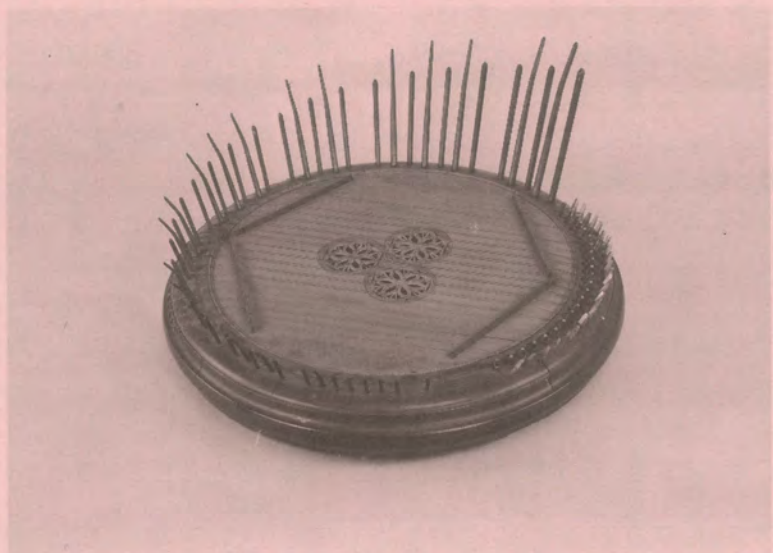


写真2 共鳴弦付ネイル・ヴァイオリン(ドイツ?) 1785年頃  
径36.2cm ピン50本 共鳴弦23コース

写真2の楽器……。音楽家ヨハン・ヴィルデには、自分のヴァイオリンの弓を壁の釘に掛けておくという習慣がありました。そんなある時、弓の毛が釘をこすると独特な音を出す事を知り、これから『ネイル・ヴァイオリン(釘ヴァイオリン)』の構想を得たと言われています。18世紀半ばのことです。今日、私たちの知っているヴァイオリンとは、だいぶ違って見えますよね。この楽器は丸箱の形をした木製の共鳴胴にいろいろな長さの釘(振動部分を短くした釘が高い音、長く出ているものが低い音)が打ち込んであるだけの、簡単な作りのものです。今日の「ヴァイオリン」は『弦鳴楽器』という部類に、この「ネイル・ヴァイオリン」

は『体鳴楽器』に分類されます。名前には「ヴァイオリン」と付いていますが、弓で擦るという以外に、形・音の響かせ方、全く違った楽器なのです。

どちらも「ヴァイオリン」と呼ぶには、少し奇妙に感じる楽器ですが……。『日常生活の中に楽器が、音楽がある』、ステキな時代だったと思いませんか？

こんな奇妙な楽器が、まだまだたくさん展示してあります。忙しい生活の中、こんな楽器を探しながら、音楽を身近に感じてみるのは、いかがですか？(S.U)



# 研究ノート ～蛙や鳥はどんな意味？～

今回ご紹介する楽器は「銅鼓（どうこ）」。中国南部から東南アジアにかけての広い地域で、今も使われている青銅製の太鼓です。大変古くから使われているようで、紀元前7世紀頃のものも見つかっています。地域や時代によって様々な型式があります。

さて、この銅鼓、表面に色々な文様が付いているのがおわかりでしょうか。好き勝手に綺麗だから付けただけ、というのではなく、実は理由があるのです。いくつかの文様について調べてみましょう。

まず、鼓面（上の平らな面）の四方に、3匹重なっている四つ足の動物が見えます（\*1）。これは蛙です。親子孫3代なのか、はたまた蛙3兄弟なのか、それはわかりませんが、蛙なのです。蛙が銅鼓に登場するのは紀元後数世紀を経てからで、始めの頃は1段でした。時代が新しくなるにつれ2段、3段となります。なぜ蛙なのか色々な説がありますが、銅鼓は「雨乞い」のために叩かれるので雨を呼ぶ動物として蛙が付いた、というのがひとつの説です。

次に、鼓面中央に星形の文様が見えます（\*2）。これは太陽だと言われ、当時の人々の太陽神崇拝を表わしています。また、銅鼓はもともと、ふつうの炊事用の釜を逆さにして叩いたのが始まりなので、叩く面はすなわち釜の底の外側、つまり火があたる部分ですから、この文様は炎だという説もあります。



\*2 銅鼓（タイ製、20世紀）  
高さ：55.9cm 鼓面径：55.9cm 重さ：26.5kg

人間の歴史と人々の感性を語る楽器の好例と言えるでしょう。（K.S）

最後に、鳥の文様（\*3）。これもまた諸説粉々。この鳥は海辺の水鳥で天候を予測する本能があり、生活が天候に影響される海辺の人々にとっては愛する対象、崇拝の対象であったという説や、天に昇り去る死者の靈魂を象徴するという説です。

以上の他、銅鼓には円形、菱形、雲形など色々な文様が刻まれ、象（\*4）や魚などの像も付いていて、それぞれ様々な意味があるようですが、どれも決定的というものがなく未解明の部分が多いようです。

謎多き銅鼓ですが、まさに



# 博物館のお仕事

博物館の仕事に調査、研究という部門がございます。

どうして博物館の仕事に調査や研究という部門が入っているのでしょうか。

それは、博物館というのは生涯学習の場であるからです。このため、博物館では事業目的によって、様々な情報を集めます。この過程を調査と呼びます。

こうして集められ蓄積された情報は、当然公開されていくべきです。その手法は展示会であったり、講座であったり、電話による質疑応答であったりします。つまりサービスです。このサービスは基本的に利用者の欲求によって決まります。専門的なことあれば一般常識的なこともございます。このサービスを常に念頭において学習することを研究と呼びます。

たとえば、何故博物館で「三遠南信芸能調査(※)」をするか、と言えはこの地域の芸能の情報を集め、それを分析することにより、その特徴を指摘し、地域と芸能のあり方や存続理由を公開していくためです。こうした活動は、とりもなおさず保存や伝承に力を貸す、といった博物館活動のあるべき機能を示しているからです。

(O.G)

※楽器博物館では、平成7年度より歌舞伎や霜月神楽など三遠南信地域の芸能調査を行っています。



郷土歌舞伎  
愛知県南設楽郡作手村(平成10年7月12日)  
上:楽屋 下:舞台

## ♪博物館日誌

6/6,13,27	展示室ガイドツアー	〈今後の催し物〉
6/9	楽器博物館運営協議会	9/30~10/24
6/20	ミュージアムサロン「丸い笛」	10/11
7/1	市制記念日無料開放	
7/4,11,25	展示室ガイドツアー	
7/18	ミュージアムサロン「音の正体」	12/4~12/26
7/22~8/29	企画展「わくわく楽器ランド」	展示室ガイドツアー
8/1,8,22,29	展示室ガイドツアー	ミュージアムサロン
8/15	ミュージアムサロン「音の正体」	

## ♪お知らせ

企画展「ピーヒャラドン ～遠州の祭りと太鼓～」  
講演会「遠州の太鼓」  
14:00～、アクトシティ浜松研修交流センター  
出演・お話:遠州出世太鼓保存会 他  
海外フィールドワーク速報展 ～パプアニューギニア～  
10/3,10,24,31,11/7,14,28,12/5,12,26  
各回とも11時と14時、展示品解説  
10/17,11/21,12/19  
各回とも11時と14時、楽器ワンポイントミニ講座

### ◆5月～7月の入館者数

大人	15,745人
中人	782人
小人	3,097人
幼児	753人
合計	20,377人

### 利用案内

開館時間:火曜日～日曜日 午前9:30～午後5:00  
休館日:月曜日(祝日にあたる時は開館)、祝日の翌日、  
年末年始、館内整理日10/27、11/17、12/8、15、  
1/26、2/23、3/29  
観覧料: 個人 団体(20人以上) 団体(80人以上)  
大人(大学生以上) 400円 320円 240円  
中人(高校生) 200円 160円 120円  
小人(小・中学生) 100円 80円 60円  
※館内には、貴重品以外のお荷物は持ち込みできません。

### 浜西市楽器博物館だより

1999年9月30日発行

No.17

編集 浜西市楽器博物館  
〒430-7790 静岡県浜松市板屋町108-1  
TEL. 053-451-1128  
FAX. 053-451-1129

印刷 株式会社シバプリント